

<大会開催報告>

初年次教育学会 第3回大会 開催報告

笹金光徳

高千穂大学

2010年9月11日(土)、12日(日)の両日にわたり高千穂大学(東京都杉並区)において初年次教育学会第3回大会が開催されました。当大会は、2008年3月に同志社大学で行われた設立総会、同年11月の玉川大学での第1回大会、2009年9月の関西国際大学での第2回大会に続く学会発足2年半にして4度目の学会行事でしたが、参加者数は、参加登録ベースで、374名(内訳は、非学生会員275、学生13、非会員86)であり、これに含まれないシンポジスト・賛助会員・学内関係者を含めると、実質上は約400名に達しました。これは、第2回大会と同程度ないしは若干上回る数値であり、高等教育における初年次教育への関心の高さが依然として継続していることを反映していると解釈できます。

過去2大会が、学長を中心として組織的・全学的な(初年次教育改革を含む)学士課程教育改革を積極的に推進し成果を上げている、いわば「模範な大学」を会場校としていたのに対し、今大会はいわゆる「普通の大学」を会場とする初めての年次大会だという意識が私たち理事会にはありました。さらに、過去2大会の大会委員長がいずれも学内において教育改革の中心的役割を担っていたのに対し、筆者は学内に十分にはバックアップ体制を要求できる立場ではございませんでしたので、その準備にあたっては、これまで以上に学会事務局からの経済的支援や学外からのサポートが必要でした。そんな状況の中で最も幸運だったことのひとつは、学会設立前後からずっと仲良くさせていただいて来た近隣の先生方の全面的な協力のもとで実行委員会が組織でき、大会当日に至るまでたくさんの支援をいただけたことです。

実行委員会において、スケジュール、タイムテーブル、プログラム編成、企画・運営等に関して議論が交され、大会実施に日々進捗していきましたが、こうして得られた成果を数点紹介します。まず、今大会で初めて自由研究発表の後に総括討論の時間を設けることにしました。これによって(時間的制約から強引にグルーピングがなされた部会もあったかもしれませんが)座長・発表者・聴講者間で、部会テーマに沿って総括的または発展的な議論を深め、より一層の情報共有、意見交換、人的交流ができたのではないかと思います。また、両日ともワークショップ(以下、WS)とラウンドテーブル(以下、RT)を同一時間に配し、企画セッションとすることによって、時間的制約の中でできる限りの多様性を提供できるよう工夫しました。さらに、RTは、文字通り「円卓」を囲んで議論できるように会場設営を行いました。

大会初日(9/11)は、午前中の企画セッション(WS4件、RT3件)にはじまり、午後に関会式、シンポジウム、総会、自由研究発表(6部会27件)、懇親会と続きました。翌日(9/12)は、午前中に企画セッション(WS5件、RT2件)、午後に関会式(6部会25件)を行い、閉会式にて全日程を終えました。2日間のセッション件数が、WS、RT、自由研究発表のいずれにおいても前回大会を各1件ずつ上回りました。また、ほぼ前回大会並みの総勢150人を超えた懇親会においては、ドリンクを片手にいたるところで親交の輪ができ、和やかな情報交換が交されていたようございます。

「初年次教育のリアリティから教育の質保証を考える」というタイトルをかざしたシンポジウムでは、立場の異なった4人のシンポジストに講演していただいたのち、パネルディスカッションを行いました。中央教育審議会から2005年1月に出された「我が国の高等教育の将来像」(答申)の中で「高等教育の質の保証」の重要性が提示され、2008年12月の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)では「質保証システムの重要性」という具体的な方策が示されました。そして、2010年は、このような流れを反映して4月から6月にかけて、3認証評価機関と日本学術会議が共催で「これからの大学教育の質保証のあり方」というシンポジウムを大々的に行った年でもありました。ひとえに「教育の質」と言っても「カリキュラム・教育プログラムの質」、「教育力の質」、「学士の質」、「内部質保証システムの質」、「外部認証システムの質」等々多岐にわたります。さらに、大学教育の現場で初年次教育に関わっている私たちからは、「質保証」ということばが少し距離感のあるピンと来ない術語に感じられるように思いました。そこで、教育の質を向上させる上で大切なこと、さらには、質保証の意味と初年次教育の役割といったことについて意見を交わし、参加者の間で実情の把握と問題意識の共有を図ることに意義があると考えたわけです。筆者の計画の詰め甘さや時間的な制約から、聴講者に満足の得られるシンポジウムになった確信はありませんが、他では得られない「教育の質保証」に関するそれなりの情報提供ができたのではないかと確信しています。

大会実施に際し、どのセッション会場でも、参加希望者が満員で入りきれないという事態が起こらないようにしたいと考えていました。しかるに、本学では、机が可動式でかつ100人以上収容できる教室の数が限られていたため、事前申込時に各セッションへの参加希望人数を調査し、集計結果を1.5倍して教室と会場のマッチングを行うことで辛うじてこの目的が達成できた次第です。

大会運営に関しては、いくつか反省すべき点もありました。まず、初日の受付業務が円滑に行われず、すべての開始・終了時刻を一律に20分ずらすことになってしまい、ご迷惑をおかけしました。また、懇親会においては当日参加手続き者の多さ(約50名)を読み切れず、料理が潤沢でなかったように思います。さらに、2日目は残暑が厳しく、冷房が十分に効かないRT会場が生じてしまいました。案内表示が少なく、会場がわかりにくいという指摘も多くいただきました。他にもいろいろご不満な点あったかと思えます。それでも、閉会式参加者に書き残していただいたメッセージは、好意的なものが主流でしたので、少し安堵することができました。なお、反省点は次回の実行委員長に伝達いたしました。

筆者にとってはあつという間の2日間でしたが、参加して下さったすべての皆様のおかげで、何とか無事に大会を終えることができました。ありがとうございます。

最後に、準備・運営に深く携わって下さった実行委員会の皆様(沖 清豪先生、川島啓二先生、菊池重雄先生、小島佐恵子先生、杉谷祐美子先生、横山千晶先生)、高千穂大学笹金ゼミの大学院生および学部生諸君、沖先生が指導されている早稲田大学の大学院生および学部生諸君に心からお礼申し上げます。

(初年次教育学会 第3回大会 実行委員長)